

友だちともに挑戦し成長を感じることで 体を動かすことを好きになる児童の育成 ～「わかった」「できた」を実感させる体育授業を目指して～

大分県大分市立松岡小学校

全校児童数	917名(男子435名 女子482名)		
全クラス数	34	教職員数	50名
体育専科教員訪問学校数			1校
訪問校	大分市立戸次小学校		
体育専科教員名			井上 直樹

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ◆**合同体育でも運動量確保した場づくりをすること**
- ◆**体育科における一人一台端末の有効的な活用法**
- ◆**学校全体で共通理解をしながらの体育指導**

2 取組の計画

- ① 小学5年「陸上運動」を通じて50m走の記録向上
第5学年の「リレー学習」を通して、バトンパスの技術力向上を目指して授業を行う中で、走り込みを継続していくことで走力アップを目指していく。リレー学習の実施前と後で50m走の記録を計測し、タイムをどのくらい縮められたかを比較をする。
- ② 全校一斉の取組の継続化「全校一斉器械運動月間」
小学校体育の領域の中で、教職員が指導方法に困りが生じる領域である「器械運動」を全校一斉取組として位置付ける。道具の準備片付けの軽減、効率化につなげ、全校統一した指導法を共通理解しながら進めていく。

Do：実践内容

1. 第5学年「リレー学習」

～バトンパス向上を目指したICT活用のグループ活動を通して～

- 授業形態
 - 1学級36人を1チーム12人 計3チームの固定チームに分ける。(走力、男女比、人間関係なども考慮)
 - 一斉指導、チーム練習などを通して、バトンパスの技術向上、走順の作戦決定などをしながら、授業を進めていく。
 - チームのタイムを縮めていくことを目的にする。
- ICT、ワークシートの活用
 - 3～4人に1台のipadを使用して、バトンパスの様子を動画に撮影する。その姿を見ながら、教え合いの活動をする。
 - ワークシートは、リレー学習終了後の評価として活用させた。(運動場の学習で、ICTとワークシートの両方の使用は時間的に困難と判断したため)

2. 全校一斉器械運動月間(マット・跳び箱運動)

～ICT活用のペア活動・ロイロノートのワークシート活用を通して～

- 授業形態
 - 補強運動は4つの場所のサーキットを毎時間実施し、待つ時間が少なくなるように運動量を確保する。(ローテーション)
 - 具体的な指導内容
 - ①補強運動(サーキット)
 - A 長く細いマットを使って、脚を開いたうさぎとび
 - B セイフティマットを活用し台上前転につながる前転(3年以上)
 - C 跳び箱への跳び上がり 跳び下り
 - D スポンジマット1段を使っての開脚跳びの姿勢の確認
 - ②スモールステップの練習
 - ・フラフープを使っての踏切練習
 - ・踏み切り板と跳び箱を使っての踏切練習
 - ③開脚とび、台上前転の練習(1, 2年生はまたぎ跳び)
 - ・開脚とび(6か所)、台上前転(3か所)の場づくりをして、自分に合った場所を選択させて練習をする。

• ICT、ワークシートの活用(3年以上)

- ペアを組み、1人1台のipadを使用して、自分の姿を自分のipadに撮影するようにする。
- ロイロノートで写真・動画付きのワークシートを作成する。(1, 2年生は紙媒体でのワークシート活用)

●工夫したこと(&苦労した点)

1. 第5学年「リレー学習」

- 毎時間、授業の最後に3チーム対抗のリレーを実施して記録の計測を行った。改善されたポイントが結果としてどのくらい反映されたかを確認できるよさがある。
- 動画撮影時・話し合い活動時には、毎時間視点を与えていた。「受ける手・渡す手の確認」「リードのタイミング」「スタートのスピード」など視点のレベルを少しずつ上げながら授業を進めていった。

2. 全校一斉器械運動月間(マット・跳び箱運動)

- 着手の仕方を全校統一した教え方で確認をした。補強運動の内容やローテーションの仕方も統一することで、技能向上につなげようとした。
- ipadの撮影時に、撮影の場所に目印をして、全員が同じ角度と大きさで撮影できるようにした
- 体力アップわくわく事業と連動させることで、体育専科教員、担任、講師の体制で十分な指導体制を図った。

Check：取組の成果

1. 第5学年「リレー学習」

- 固定チームでの話し合い活動にipadを活用したことで、自分の姿を見ながら修正ポイントを確認することができた。
- 学年180名中160人以上(9割以上)の児童が、50m走の記録を縮めることができた。男子平均8.9秒(全国平均比-0.3秒)、女子平均9.2秒(全国平均比-0.2秒)と記録の向上につながった。

2. 全校一斉器械運動月間(マット・跳び箱運動)

- ペア・グループでの話し合い活動にipadを活用したことで、自分の姿を見ながら修正ポイントを確認することができ、技能の向上につながった。
- ロイロノートでのワークシート活用は、「思考・判断・表現」の観点評価につなげることができた。

Action：今後の課題

- 50m走の記録は、学校としては平均超えが少なかった。来年度に向けて、全校統一した年間通じた走の領域の強化を図る継続した取組を検討する必要がある。
- 自分たちだけではできないことだが、体育館のネット環境の充実がICT活用の幅が広がる。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

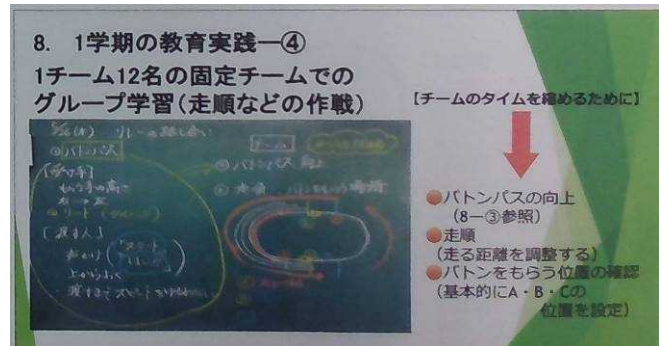
「前向きな考え方に、挑戦する心が向上する」

☆全校児童・教職員が同じ方向を向いて体力向上に向かうことで、運動に関する意識が変わってくる。本校の児童アンケートから「運動が好き」の質問に対して、90%以上の児童が好きと回答している。

1. 第5学年「リレー学習」 ～バトンパス向上を目指した ICT 活用のグループ活動を通して～



☆バトンパスの練習の様子 (左側は話し合い活動)



☆作戦の組み方を板書に示したもの (走順・バトンゾーンの使用)

2. 全校一斉器械運動月間 (マット・跳び箱運動) ～ICT 活用のペア活動・ロイロノートのワークシート活用を通して～

1P 「Do」 2①A

B

C

D



☆補強運動の4つの場づくり (4グループに分かれたローテーション)



☆台上前転の技能



☆ロイロノートでのワークシート活用

